

# くにざかい 国境を守る②

所要時間(往復)  
徒歩 8時間  
車 40分

山中湖村

忍野村

山中湖周辺は、甲斐・駿河・相模の国境が接する地点である。武田氏時代、この地域は山中氏が治めていたと記録される。また、その北西に位置する現在の忍野村には、烽火台が置かれていたという。



この地に陣鐘をおいて、敵の襲来を伝えていたとされる。

- 75 鐘山** かねやま  
この地に陣鐘をおいて、敵の襲来を伝えていたとされる。
- 76 山中氏屋敷跡** やまなかしやしきあと  
山中浅間神社参道と村道がぶつかる地点から山中湖に延びる大浜道沿いに地元武将・山中氏の館があったとされる。この場所は御所と呼ばれ、周囲には今も土塁が残る。
- 77 山中諏訪神社** やまなかすわじんじや  
天文二十一年(1552)、北条氏との合戦に際して武田晴信が戦勝を祈願して、本殿を造営寄進したと伝わる。毎年九月の例大祭は安産祭り(山中湖村指定無形文化財)と呼ばれ、妊産婦や新婚女性が全国から集まる。
- 78 山中口留番所跡** やまなかぐちどめぼんしよあと  
甲斐・駿河・相模三国境の山中湖村には、武田氏の時代から番所が置かれ、江戸時代にも口留番所として機能した。敷石や杵石が残る。山中湖村指定史跡。
- 79 ツナ道標** つなみちびょう  
駿河国日向村(静岡県小山町中日向)と平野村を結んだツナ峠越えの道を示す道標。元龜二年(1571)に、武田軍は駿河国の深沢城を攻めるため、ツナ峠を越えた。その三年前には、地元平野村に対し軍用道としての整備を命じたという。宝永四年(1707)の富士山噴火以前の主要道だったが、噴火後に現在の籠坂峠越えへとその機能が移る。
- 80 寿徳寺** じゆとくじ  
文応元年(1260)、鎌倉建長寺の禪師が開山。武田信玄が祈願所に定め、甲駿両国を結ぶ軍道の整備を命じた永禄十一年(1568)の武田家印判状(山中湖村指定文化財)などが残されている。



80 寿徳寺



78 山中口留番所跡



77 山中諏訪神社